1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500149		
法人名	医療法人社団生和会		
事業所名	グループホーム和み福谷の森		
所在地	山口県周南市岡田町3番30号		
自己評価作成日	平成23年12月23日	評価結果市町受理日	平成24年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成24年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周南市中心部に位置し、一般住宅に囲まれた閑静な環境にあり、保育園や学校なども近く、地区の運動会や夏祭りなどへ、地域住民として参加も行っていきます。
また、年間を通して様々な行事を開催しご家族の方々も気軽に参加されており、毎日の生活の中では、出来ることを無理なく行えるよう、一人一人の利用者の皆さんを理解し、状況を整えています。
お世話してもらったと感じられるのではなく、生活へ自然に参加されることによって、ホームが我が家になり、表情豊かに過ごされるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者とのコミュニケーションを深めながら、利用者の思いや特性を十分理解され、共用空間の壁面の飾りつけや食卓の配置、居室の整備など利用者夫々に配慮された対応をしておられます。三度の食事は事業所でみんなで献立を考えながら調理され、たこ焼き大会やパンバイキング、居酒屋ごっこなど食事が楽しみなものになるよう工夫されています。フリーの職員を配置され、散歩や近所の庭を楽しみながらのかりつけ医への徒歩受診、買い物など利用者の希望にそった外出支援に努めておられます。市街地の事業所でありながら、地域との連携もあり、自治会に加入し、地域の祭りやどんど焼き、夏まつり、運動会等に参加され、地域の一員として日常的に交流されています。家族との連携や情報提供が十分行われ、明細書と共に月次報告書や和みの新聞、写真入りの一週間の献立表を送付され、年間写真集はCDに収録され、家族に配布しておられます。忘年会やリンゴ狩りなど家族参加型行事も企画され、事業所での暮らしぶりをスライドショーで見てもらったり、家族バンドの演奏など、利用者と家族、職員の連携を深めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりの大切さを踏まえて、理念を作成し掲示しており、全職員が共有し実践に向け努力している。	「家庭的な雰囲気の中で」「感情豊かに」「自然な形で地域参加を行いながら」「その人らしく生活できる場を」と事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、理念を周知している。管理者と職員はミーティングなどで理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の周辺清掃や買い物など、言葉を交わす機会も多く、自治会に加入させていただき、地域行事へ無理なく参加できるよう、地域の皆様の協力も得られている。	自治会に加入し、徒歩での受診時や散歩で周辺の住民と挨拶を交わしている。小学校の運動会やどんど焼き、地域の祭りなど地域の行事に参加しており、地域の受け入れも良く協力が得られている。事業所の夏祭りには地域住民の参加もあり、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の見学の受け入れや、ホーム主催の夏祭りなど、交流の場を設けている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者・職員は、自己評価及び外部評価の実施の意義を理解し、全員で取り組んでいる。	サービス評価ガイド集を参考に職員全員で自己評価を行い、ミーティングで話し合い、リーダーと管理者でまとめている。日々のケアの振り返りや見直しなど、評価を活かした具体的な提案に繋げている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し、ホームの運営状況を報告しながら意見を頂き、夏祭りや運動会などへの参加へも繋がった。	定例日を定め、家族や自治会長などの地域住民、警察や消防関係者などで、2ヶ月に1回開催し、各種提言や話し合いの中から、地域行事への参加など、地域との交流や協力関係の構築に繋げている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連携を図っており、地域住民としての敬老会参加等相談中である。	日頃から電話や出向いて、相談や話し合いを行い、連携している。地域からの提案もあり、地域の一員としての地域の敬老会参加等協議中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為について理解し、スタッフ同士の連携で利用者さんの見守りを行い、安全確保のために玄関にはセンサーを設置している。	職員はマニュアルをもとに、研修やミーティングで確認し合い、身体拘束について正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。注意深い見守りにより玄関は施錠せず、薬や言葉による拘束も行っていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、日々の支援が虐待に繋がっていないか、職員がお互いに声をかけあえる関係作りを行っている。また対応困難事例についての支援方法を話し合い、虐待に繋がらないよう、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があればご家族等に相談を行い、実際に制度を活用されているご家族も数名おられる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には時間をゆつくりと持ち、不安や疑問を伺い、納得されるまで説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の相談窓口や第三者委員を明記し、家族参加型行事への介護相談員の参加や、運営推進会議での意見交換など、外部者へ表せる機会を持ち、意見や苦情について職員で話し合い改善に努めるよう取り組んでいる。	苦情の受付相談窓口や苦情処理の手続きを明確にし、第三者委員を選任して、周知している。家族参加型行事への介護相談員の参加や、面会時、運営推進会議等で意見や苦情を聞き、職員で話し合い、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日勤者としても勤務し、月一回の定例会議やユニット会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へも常に報告を行い運営に反映している。	管理者は日常業務や月1回の定例会議、ユニット会議で職員の意見や提案を聞いており、法人代表者に報告している。職員の勤務体制の検討等の提案があり、柔軟に対応するなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードを導入し個々の勤務状況を把握し、職場環境を整備することで一人一人の負担の軽減を図っている。、様々な働き方(時間等)で個々の職員にあった条件の整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護専門職として必要な基本的な研修は、内外研修で勤務の一環で行っており、実践の中で発生するケアの問題点や疑問点については、その都度アドバイスが受けられる状況を作っている。ミーティングでも取り上げている。	ミーティングで内部研修を実施し、外部研修は勤務の一環として受講の機会を提供している。受講者は研修内容を伝達し、職員間で共有している。管理者は日々の業務の中で、職員一人ひとりの力量を把握し、課題や疑問に対応しており、資格取得など働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム連絡会、周南・光地区学習会への参加などでネットワークを広げ、勉強会を通してサービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やご家族のお話を時間をかけて伺い、不安なまま入所へならないよう又、入所後もご自身のペースで生活が送れるようにしている。ご本人の安心の為奥様が数日泊まり込まれることもあった。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族との対話の機会を設け、双方が納得し、信頼されるような関係作りを行っている。また家人から何でも気軽に声をかけていただいている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの段階から、要望・状況を見極め他サービスのご案内や、他グループホームの紹介など適切に支援が受けれるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が、生活の中心になれるよう状況を作り出し、持てる力を無理なく発揮できるよう支援しており、自然と役割が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状を報告し、ご自身の望まれていることに、ご家族の協力の必要性を説明しながら、ご協力が得られている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会や電話、入居者の住み慣れた町や馴染みの場所へドライブ、地域行事への参加などを行っている。	家族や友人、知人の来訪や面会、住んでいた町や馴染みの場所へのドライブ、地元敬老会への参加、親族が入院した時のお見舞いなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に自然な形で会話の架け橋や、個々の得意分野を生かせる支援を行い、利用者同士の助け合いの場面作りを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院に入院された方のお見舞いや、家族からの要望や相談を聞き、必要があれば他サービスへの連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスを開催し、本人本位に検討を行い、出来るだけご希望に沿った支援を行っている。	利用者とのコミュニケーションを大切にし、日々の会話や言動の中から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は一人ひとりの生活歴や介護の記録を参考に、家族の意見を聞きながら本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や近親者からの情報のほかに、普段の何気ない会話から見えてくる生活歴等も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前もって支援を行うのではなく、状況を見極め対応し記録に残していくことで、全職員が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、本人・家族の意見を基に介護計画を作成している。必要時には見直しを行っている。	本人や家族の意見、受診時の主治医の意見などを参考にして、カンファレンスで話し合い、それぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状況に応じて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・日誌の記入を行い、記入方法や内容についてもカンファレンス時に再確認している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近親者の入院面会や、個別のお墓参り同伴・葬儀参列の支援等行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへの買い物・受診同伴、地区の行事参加などを行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き入れ、納得の得られたかかりつけ医へ受診が受けれるよう支援している。往診も受けれる状態である。	契約時に希望を聞き、本人及び家族の納得が得られたかかりつけ医に定期的を受診している。必要に応じ往診にも対応し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切に医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師や、かかりつけ医の看護師との連携により適切な医療が受けれる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院後の対応について、同法人内の病院相談員と連携を取り、本人・ご家族が安心して治療に専念できる体制作りを作っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針についてご説明し、状況の変化に応じて都度ご家族や医療関係者と相談しながら、対応している。	重度化や終末期に向けた方針は、契約時に、本人や家族に事業所で出来ることを説明し、方針を共有している。状況の変化に応じて、その都度、家族や医療機関と話し合い、併設施設の利用も含めて、本人本位に支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月のカンファレンスで、ヒヤリハットの状況や対応について話し合い、より安全な体制作りを考えている。全職員で普通救命救急の講習を受講した。救急時の対応についてはミーティング時に再確認している。	事故防止マニュアルを作成し、毎月のカンファレンスや事案発生時にヒヤリはっと報告書や事故報告書を検証し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員は救命救急講習を受講し、応急手当や初期対応についてミーティングで再確認している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の少人数体制時の、地震を含めた防災訓練を行い、ホーム独自の避難方法について掲示した。	事業所独自の避難方法を掲示し、年2回、昼夜の避難訓練を利用者と一緒に行っている。運営推進会議で地域協力の在り方について話し合っているが、具体的な協力体制の構築には至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルの保管方法の管理や、普段から誇りやプライバシーを損ねない支援を行っている。	職員はカンファレンスで人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、利用者の自尊心を傷つけず、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が、自己決定できる状況作りを行い、楽しんで生活参加される支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話の中から自然に出た希望を生活の中に取り入れるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣時には、タンスより何枚か取り出し選んで頂きながら一日を始めています。毎日続けて同じ服を着られないように支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から片付けまで、個々の発揮できる力を考えながら、利用者と共にしている。	三食事業所で調理し、利用者は献立、調理、盛り付け、片付けなどできることを職員と一緒に、食事を楽しめるように支援している。パンバイキングや居酒屋ごっこなど食べることの楽しみを工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	集計表を活用し、排泄と飲水の状態や体重管理、また定期的に担当ドクターに受診し、栄養状態のチェックを受けている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には個別の口腔ケアを行い、毎夜ポリドントにて、義歯の預かり消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	集計表の記入により、個々の毎日の排泄パターンがつかめており、声掛けや誘導にてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を料理の中にふんだんに使用し、毎日の生活の中で清掃や散歩等適度な運動を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	朝～夕方迄時間指定なく入浴が出来る環境にあり、気持ちよく入浴されたいくなる状況作りで楽しんでいる。	毎日、午前、午後いつでも、利用者一人ひとりの希望に合わせてゆっくり入浴を楽しめるよう支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠につなげていけるよう、適度な休息を入れながら、日中に無理なく体を動かさず動作を取り入れ、就寝前には安心して入床されるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時には必ず情報提供書を頂き、職員が目を通して見ている。新たに症状が発見された場合には、病状の情報を共有し確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	話の中から自然に出た希望を生活の中に取り入れ、得意分野を発揮して頂きながら、室内だけの生活にならないよう大小のイベントを計画し実行している。	花の植栽や野菜づくり、料理やおやつ作り、洗濯物たたみ、新聞、カラオケ、買い物、釣りなど活躍できる場面づくりや気分転換の支援をしている。たこやき大会やバンバイキング、居酒屋ごっこなどのミニイベントを利用者は職員と一緒に楽しんでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フリー体制の職員の配置や、ご家族の協力の元個々の支援に対応している。地域の方々の協力により、地区の夏祭りや運動会にも参加することが出来た。	利用者一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物、ドライブ、かかりつけ医へは近隣の庭を楽しみながら、時には交流しながら徒歩受診するなど日常的な外出の支援をしている。外食や家族も参加できるリンゴ狩りなどに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望があれば、ご家族のご理解の中、許される金額をもたれている利用者もおられ、近所のスーパーで買い物を楽しまれる支援も行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう対応している。年賀状など担当職員と共に記入した。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて装飾をしたり、利用者のニーズに合わせた椅子等の配置など居心地良く過ごせる環境作りを行っている。	共用空間は広く、明るく、厨房は回廊式で利用者と職員と一緒に会話をしながら、調理を楽しんでいる。教養空間には季節の花を活性、壁面には季節感やぬくもりのある飾りつけをし、温度や湿度も適切である。テーブルや椅子を配置し、ソファでテレビを観たり、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室の行き来や、多様な場所で思い思いに過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の生活空間を作って頂くよう、使い慣れたものを持参して頂いている。入居後に新たに居心地良く過ごせるために必要なものは、都度ご家族に相談し持ち込んでいただいている。	使い慣れた椅子やテーブル、テレビ、ソファ、小物置き、カーテンなどを持ち込み、思い出の写真や人形、カレンダー等を飾り、その人らしく安心して暮らせるよう配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせて床にクッションマットを敷くなど、安全に考慮している。トイレの場所もわかりやすい場所に設計から取り入れてもらっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム和み 福谷の森

作成日: 平成 23年 12月 28日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49 50	自然な形で、出来ることを発揮しながら、毎日を送ってられるが、単発では個々の楽しみを行うことはあっても、継続的に個別で趣味を楽しんでいただく事が行えていない。	個別支援の継続化	※ 各担当者が、「今」利用者がやってみたいことを情報収集する。 ※ やってみたいことに向けて、必要な状況を作る。(スタッフの配置など) ※	一年間
2	15	緊急対応のマニュアルは作成されており、講習は受けているが、いざという時に対応できるか職員の中で不安の声がある。	緊急対応の万全な体制作り	※ 定期的な訓練(三か月以降も継続) ※ 事例に基づいた確認を行い、不安要素の排除	三か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。